

## H26 シカ年度 遺産地域内エゾシカ個体数調整実施結果

### 1. ルサ - 相泊地区

---

#### <概要>

- ・ 羅臼町ルサ川左岸～相泊の約 8 km の範囲内の 3 カ所において囲いわな及び流し猟式シャープシューティング（以下、流し猟式 SS）によるシカ捕獲を実施。
- ・ 計 88 頭（オス成獣 22 頭、メス成獣 49 頭、0 歳 17 頭）を捕獲。

実行計画目標値 215 頭（未達成）

#### <結果> 表 1-2-1、1-2-2

##### 1) ルサ囲いわな（5年目）

- ・ 自動落下式ゲートを用いた小型囲いわな（既設）による捕獲を、平成 27 年 1 月 16 日～4 月 30 日までの 98 日間実施。
- ・ 36 頭（うちメス成獣 17 頭；47.2%）を捕獲。

実行計画目標値 15 頭(達成)

##### 2) 相泊囲いわな（2年目）

- ・ アイドマリ川左岸に小型囲いわなを再設置。捕獲開始前に吹雪・雪崩で道道が閉鎖され、4 月まで通行規制が行われたため、期限の 3 月末までに捕獲を実施できず。

実行計画目標値 120 頭（未達成）

##### 3) 北浜～相泊の流し猟式 SS（4年目）

- ・ 平成 26 年 12 月 23 日～平成 27 年 4 月 26 日の 125 日間（※餌づけ期間）に流し猟式 SS を 6 回実施。
- ・ 52 頭（うちメス成獣 32 頭；61.5%）を捕獲した。

実行計画目標値 80 頭（未達成）

表 1-2-1. H26 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲実施スケジュール

	12月	1月	2月	3月	4月
囲いわな ルサ	12/24～餌づけ誘引		1/16～	わな稼働期間	～4/30
囲いわな 相泊	1/5～囲いわな設置工事着工		～2/13囲いわな完成		
流し猟式SS 北浜～相泊	12/23～餌づけ誘引	1月2回	2月1回		4月3回

※流し猟式 SS の灰色部分は、餌付けのみ実施した期間を示している。

表 1-2-2. H26 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス 成獣	メス 成獣	0歳	計
囲いわな	ルサ	13	17	6	36
	相泊	-	-	-	-
流し猟式シャープ シューティング	北浜～相泊	9	32	11	52
合計		22	49	17	88

<捕獲効率> 図 1-2-1、表 1-2-3

- ・1日あたりの最大捕獲頭数は、ルサ囲いわな 5 頭（2月 26 日）、流し猟式 SS 16 頭（4月 26 日）であった。
- ・ルサ囲いわな（5 シーズン目）は、捕獲数および捕獲効率ともに、過去最低であった昨シカ年度よりも増加。
- ・流し猟式 SS（4 シーズン目）の捕獲効率はあまり低下していないが、大雪による道道閉鎖の影響で実施回数を十分確保できず、捕獲数は前年より減少。

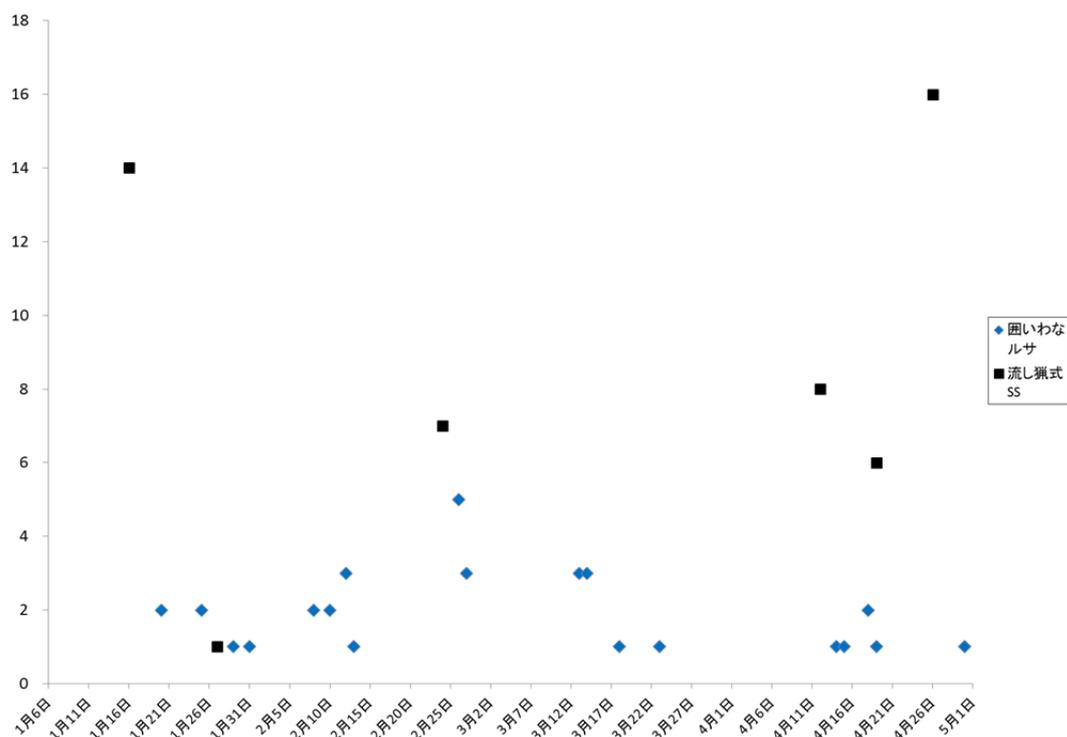


図 1-2-1. ルサー相泊地区における H26 シカ年度の手法及び場所別の各日のエゾシカ捕獲結果

表 1-2-3. ルサー相泊地区における捕獲効率のシカ年度間比較

シカ年度	ルサ罠いわな		相泊罠いわな		ルサー相泊SS		捕獲方式
	搬出頭数*	捕獲効率 <sup>a</sup>	搬出頭数*	捕獲効率 <sup>a</sup>	捕獲頭数	捕獲効率 <sup>b</sup>	
H21					23	0.7	待ち伏せ式
H22	100	1.0			24	0.4	待ち伏せ式
H23	91	1.4			53	3.1	流し猟式
H24	17	0.3			61	4.1	流し猟式
H25	14	0.1	116	1.8	78	3.5	流し猟式
H26	36	0.4			52	3.0	流し猟式
合計	258		116		291		

\* 搬出頭数: 脱走個体や意図的に再放逐した個体を除く、生態系から除去した頭数

・捕獲効率<sup>a</sup>: 1わな日(罠いわなの有効稼働日)あたりのシカ搬出頭数(頭/日)

・捕獲効率<sup>b</sup>: 射手待機1時間あたりのシカ捕獲頭数(頭/時間)

## <まとめ>

実行計画目標値を達成できなかった理由としては、記録的な豪雪により、相泊囲いワナが稼働できなかったこと、流し猟式 SS についても、十分な事前の餌付けが行えなかったことが挙げられる。

### 1) ルサ囲いわな

- ・H25 シカ年度は捕獲頭数・捕獲効率ともに最低だったが、今期はやや増加。新たな群れが誘引可能な範囲へ流入してきた可能性あり。
- ・記録的な大雪の影響で、例年の高標高への移動が阻害された可能性あり。
- ・捕獲実施期間中（4月末まで）は付近でヒグマの姿・痕跡の発見なし。

### 2) 相泊囲いわな

- ・1月8日に道道87号線の岩見橋以北が吹雪で閉鎖。その後断続的に規制解除されることはあったが、瀬石～相泊の開通日は1月14～16日、29～30日及び2月12～13日の合計7日間のみ。わなが完成した2月13日以降は4月20日まで閉鎖されており、捕獲を実施することができなかった。
- ・2月12日、わな完成前に行った餌付け誘引時には10頭以上が走り寄ってきた。
- ・もし捕獲を実施できていれば、前年と同水準の捕獲効率が期待できたと考えられる。

### 3) 流し猟式 SS

- ・大雪のため、1月8日～4月20日の大部分の日で道道87号線の通行が規制されていたため、十分な餌づけ誘引が行えなかった。
- ・H25シカ年度とは違い、2～3月においても餌場に出現するシカが極端に少なくなることはなかった。
- ・4月の捕獲実施時間を14:30～17:30にずらしたことで、シカの出現時間帯に効率良く捕獲を実施することができ、かつ漁業生産活動への影響を低減できた。

## 2. 幌別 - 岩尾別地区

---

### <概要>

- ・斜里町幌別ー岩尾別地区において、平成 27 年 1～5 月に 4 箇所捕獲を実施。
- ・計 **177 頭**（オス成獣 29 頭、メス成獣 94 頭、0 歳 54 頭）を捕獲。

実行計画目標値 165 頭（達成）

### <結果> 表 1-2-4、1-2-5

#### 1) 仕切柵を用いた大型囲いわな（2 年目）

- ・平成 27 年 1 月 29 日～5 月 31 日の 123 日間に 11 回の捕獲作業を実施。
- ・46 頭（うちメス成獣 21 頭；45.7%）を捕獲。

実行計画目標値 40 頭（達成）

#### 2) 幌別囲いわな（2 年目）

- ・自動落下式ゲートを用いた小型囲いわなによる捕獲を、平成 27 年 1 月 24 日～3 月 16 日の 52 日間実施。
- ・94 頭（うちメス成獣 55 頭；58.5%）を捕獲。

実行計画目標値 60 頭（達成）

#### 3) 岩尾別川河口の囲いわな（3 年目）

- ・自動落下式ゲートを用いた小型囲いわなによる捕獲を、平成 27 年 1 月 22 日～3 月 10 日の 48 日間実施。
- ・22 頭（うちメス成獣 9 頭；40.9%）を捕獲。

#### 4) 岩尾別河口の流し猟式 SS（2 年目）

- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの孵化場施設道路沿線において、平成 27 年 2 月 22 日より餌付け誘引を開始し、3 月 12, 16, 19, 23 日に計 4 回捕獲を実施。

- ・15 頭（うちメス成獣 9 頭；60.0%）を捕獲。

なお道道沿いでの流し猟式 SS は、捕獲対象個体がいなかったため実施せず。

実行計画目標値 3）との合計で 45 頭（未達成）

#### 5) 五湖高架木道狙撃（1 年目）

- ・知床五湖高架木道のオコック展望台（第 2 展望台）から 1 湖の湖畔展望台（最終展望台）までの区間の海側に出現したシカについて、平成 27 年 3 月 26 日、4 月 6, 13, 17 日に計 4 回捕獲を試行。

- ・捕獲実績なし（0 頭）。発砲機会 2 回のみ（ともに失中）。

実行計画目標値 20 頭（未達成）

表 1-2-4. H26 シカ年度冬期 幌別 - 岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲実施状況

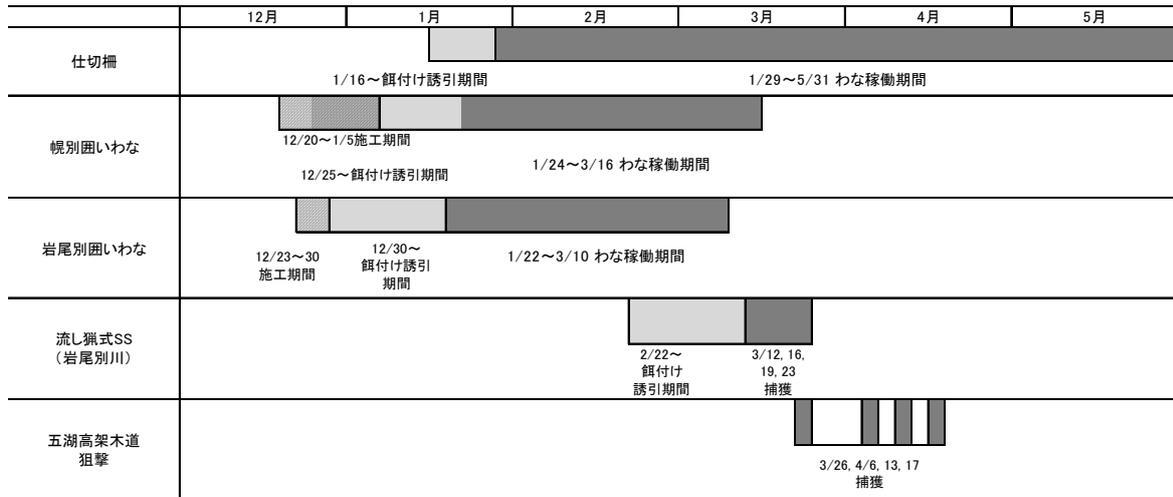


表 1-2-5. H26 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における手法別エゾシカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス成獣	メス成獣	0歳	計
仕切柵	岩尾別台地	13	21	12	46
囲いわな	幌別川河口	10	55	29	94
囲いわな	岩尾別川河口	3	9	10	22
流し猟式SS	岩尾別川河口 孵化場道路	3	9	3	15
高架木道狙撃	知床五湖				0
合計		29	94	54	177

<捕獲効率> 図 1-2-2

- ・1日あたりの最大捕獲数は、幌別囲いわな 10 頭、岩尾別囲いわな 6 頭、岩尾別仕切柵が 26 頭であった。
- ・1回あたりの平均捕獲数は、幌別囲いわな 5.2 頭、岩尾別囲いわな 2.8 頭、岩尾別仕切柵が 3.8 頭であった。
- ・ほぼ同様の期間・手法であったが、岩尾別囲いわなの捕獲数は幌別囲いわなの 1/4 以下であった。
- ・仕切柵では、2月上旬に 26 頭を一度に捕獲した後は捕獲数が低迷。4～5月には個体以外の個体が柵内にほとんど進入しなかった。

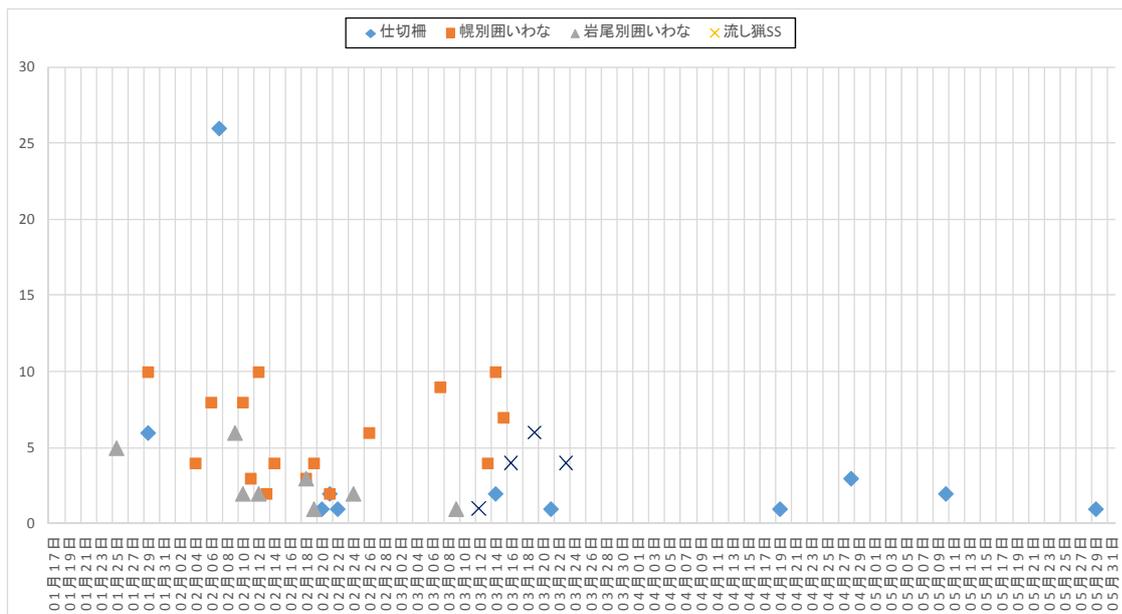


図 1-2-2. H26 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区におけるエゾシカの日別捕獲状況

<まとめ>

1) 仕切柵を用いた大型囲いわな

- ・新規導入した遠隔捕獲装置（まる三重ホカクン）が2月には暴風雪、4月はヒグマによって破壊され、やむなく手動による捕獲が主体となった。
- ・岩尾別台地上は海岸でも携帯電話電波が不安定。本仕切柵には電子機器を使用しない捕獲手法が適していると考えられた。
- ・自動カメラによれば、仕切柵内への同時進入頭数は2月上旬の暴風雪直後が最多。その際の大量捕獲成功後は低迷。前年進入が多かった4月は、多い時でも4~5頭程度（4個体含む）。
- ・今シーズンに関しては、仕切柵周辺を行動圏に含むシカの大部分を捕獲した可能性あり。
- ・ヒグマは3月17日以降、仕切柵内外で時々確認された。

2) 囲いわな

- ・暴風雪による道路閉鎖や除雪作業により、わなを稼働できない期間が特に岩尾別川河口のわなで発生。同わなは暴風で3月10日に半壊。
- ・岩尾別囲いわなの捕獲数は、前年（37頭）より更に減少。周囲にシカはいたが、わな内部へ進入しない個体が多かった（トラップシャイ）。流し猟式SSへ早めに切り替えるべきであった。
- ・幌別囲いわなは捕獲2年目であるが、前年（83頭）より捕獲数が増加。落とし扉の位置変更（海側 → 川側）等の効果か。

- ・幌別―岩尾別地区では3月12日以降、複数個体のヒグマが頻繁に目撃された。わな付近でも目撃され、やむなく3月16日に予定より早く幌別囲いわなを閉鎖、捕獲完全終了。

### 3) 流し猟式 SS

- ・ヒグマに捕獲個体を持ち去られた事例は無かったが、捕獲実施時間帯前後にヒグマが出現する状況が3月12日と19日に発生。
- ・ヒグマを警戒し、1群の捕獲を完了するたび死体を回収したため、捕獲効率は低迷。
- ・岩尾別川河口では餌付け誘引時(3/15)に最大66頭を確認。次シーズンはヒグマが完全に冬眠している1~2月から速やかにSSを実施し、効率よく捕獲を進める必要あり。

### 4) 五湖高架木道狙撃

- ・シカがほとんど出現せず。出現時も射手からの距離が遠く、群れサイズが大きかった。オス主体の群れ。
- ・発砲音1回の後、全個体がまったく立ち止まらずに逃走。仮に初弾で1頭目を倒しても、SSのように2頭目以降を捕獲できた可能性は低い。
- ・餌付け誘引が実施できない限り、この場所での多数捕獲は現状では困難か。

### 3. 知床岬地区

---

#### <概要>

- ・ H19 シカ年度より 8 シーズン目の捕獲 (H27 シカ年度 6 月含む)。仕切柵整備からは 4 シーズン目。  
流氷期にヘリコプターを使用した 1 泊 2 日の捕獲を 1 回、流氷明けに船舶を使用した日帰り捕獲と 2 泊 3 日の捕獲を各 2 回、計 5 回の捕獲を実施。
- ・ 計 88 頭 (オス成獣 31 頭、メス成獣 43 頭、0 歳 13 頭、不明 1 頭) を捕獲。

#### <結果等> 表 1-2-6、表 1-2-7、図 1-2-3

- ・ 3 月 8 日～9 日に 17 名 (射手 15 名+補助 2 名) で実施。  
57 頭 (うちメス成獣 28 頭 ; 49.1%) を捕獲。
- ・ 4 月 9 日に 15 名 (射手 15 名) で実施。  
2 頭 (うちメス成獣 1 頭 ; 50.0%) を捕獲。
- ・ 4 月 25 日に 11 名 (射手 10 名+補助 1 名) で実施。  
捕獲数は 0 頭。
- ・ 5 月 17 日～19 日に 5 名 (射手 4 名+補助 1 名) で実施。  
14 頭 (うちメス成獣 5 頭 ; 35.7%) を捕獲。
- ・ 6 月 8 日～10 日に 5 名 (射手 5 名+犬 2 頭) で実施 (最終日は実施できず)。  
15 頭 (うちメス成獣 9 頭 ; 60.0%) を捕獲。
- ・ 捕獲数は、昨シカ年度と比較して大幅に増加した。岬先端部でのシカ越冬数増加 (大雪のため?) と、現地泊により捕獲に最適な時間帯 (朝夕) に捕獲を実施することができた点が影響していると考えられる。
- ・ 8 シーズンで計 814 頭 (うちメス成獣 453 頭) 捕獲、動員射手はのべ 784 人日。
- ・ 同エリアでは捕獲実施前の平成 27 年 3 月 3 日の航空カウントで、130 頭 (前年同日は 59 頭) を確認。
- ・ 捕獲終了時点での仕切柵内 (※) における推定生息数は 43 頭 (6 月に捕獲した 0 歳を除いて 130 - 87)。
- ・ 航空センサスと捕獲実績から算出した推定生息密度 (6.0 頭/km<sup>2</sup>)

※後述のとおり、全個体が仕切柵内に終日とどまっているわけではない。

表 1-2-6. 知床岬におけるエゾシカ捕獲結果 (H19～27 シカ年度)

シカ年度	捕獲頭数	捕獲個体の内訳					巻狩回数	のべ動員の射手
		メス成獣	メス0歳	オス成獣	オス0歳	不明		
H19(1年目)	132	89	10	18	15	0	27	203
H20(2年目)	122	76	7	26	13	0	17	174
H21(3年目)	158	86	9	47	12	4	8	143
H22(4年目)	57	20	4	30	3	0	3	96
H23(5年目)	216	133	18	53	11	1	3	53
H24(6年目)	32	4	1	26	1	0	3	28
H25(7年目)	9	2	1	5	1	0	2	25
H26(8年目)	73	34	9	26	3	1	3	52
H27(9年目)	15	9	0	5	1	0	0	10
<b>総計</b>	<b>814</b>	<b>453</b>	<b>59</b>	<b>236</b>	<b>60</b>	<b>6</b>	<b>66</b>	<b>784</b>

※成獣は下顎切歯により、1歳以上と簡易判定された個体を表す。

表 1-2-7. 知床岬におけるエゾシカ捕獲作業実施状況 (H19～27 シカ年度)

シカ年度	実施時期	捕獲頭数	回収個体数	参加者数 <sup>※1</sup>			捕獲実施日数
				射手	補助員	その他	
H19	流水前	33	22	90	5	26	3
	流水後	99	44	113	59	24	12
	<b>1年目合計</b>	<b>132</b>	<b>66</b>	<b>203</b>	<b>64</b>	<b>50</b>	<b>15</b>
H20	流水前	50	10	58	19	2	3
	流水後	72	30	116	45	1	6
	<b>2年目合計</b>	<b>122</b>	<b>40</b>	<b>174</b>	<b>64</b>	<b>3</b>	<b>9</b>
H21	流水前	57	-	21	6	3	1
	流水中	86	-	85	15	5	4
	流水後	15	55	37	20	1	3
<b>3年目合計</b>	<b>158</b>	<b>55</b>	<b>143</b>	<b>41</b>	<b>9</b>	<b>8</b>	
H22	流水中	57	-	90	15	5	4
	流水後	0	10	6	3	1	1
	<b>4年目合計</b>	<b>57</b>	<b>10</b>	<b>96</b>	<b>18</b>	<b>6</b>	<b>5</b>
H23	流水中	131	-	14	-	-	1
	流水後	85	112	39	13	-	2
	<b>5年目合計</b>	<b>216</b>	<b>112</b>	<b>53</b>	<b>13</b>	<b>0</b>	<b>3</b>
H24	流水中	13	-	14	-	-	1
	流水後	19	14	14	9	-	1
	<b>6年目合計</b>	<b>32</b>	<b>14</b>	<b>28</b>	<b>9</b>	<b>0</b>	<b>2</b>
H25	流水後	9	0	25	4	0	2
	<b>7年目合計</b>	<b>9</b>	<b>0</b>	<b>25</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>2</b>
H26	流水中	57	-	15	2	1	1
	流水後	16	H27の6月に回収	37	4	5	5
	<b>8年目合計</b>	<b>73</b>		<b>52</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>6</b>
H27	6月	15	5(H26分含む)	10	0	0	2
	<b>9年目合計</b>	<b>15</b>	<b>5</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2</b>
<b>総計</b>		<b>814</b>	<b>302</b>	<b>784</b>	<b>219</b>	<b>74</b>	<b>52</b>

※1 射手は銃を持って参加した人員、補助員は銃を持たず捕獲に参加した人員を表す。ただし回収実施日には知床財団職員は回収に専念したため補助員とする。その他は番屋管理や視察等で同行した人員を表す。

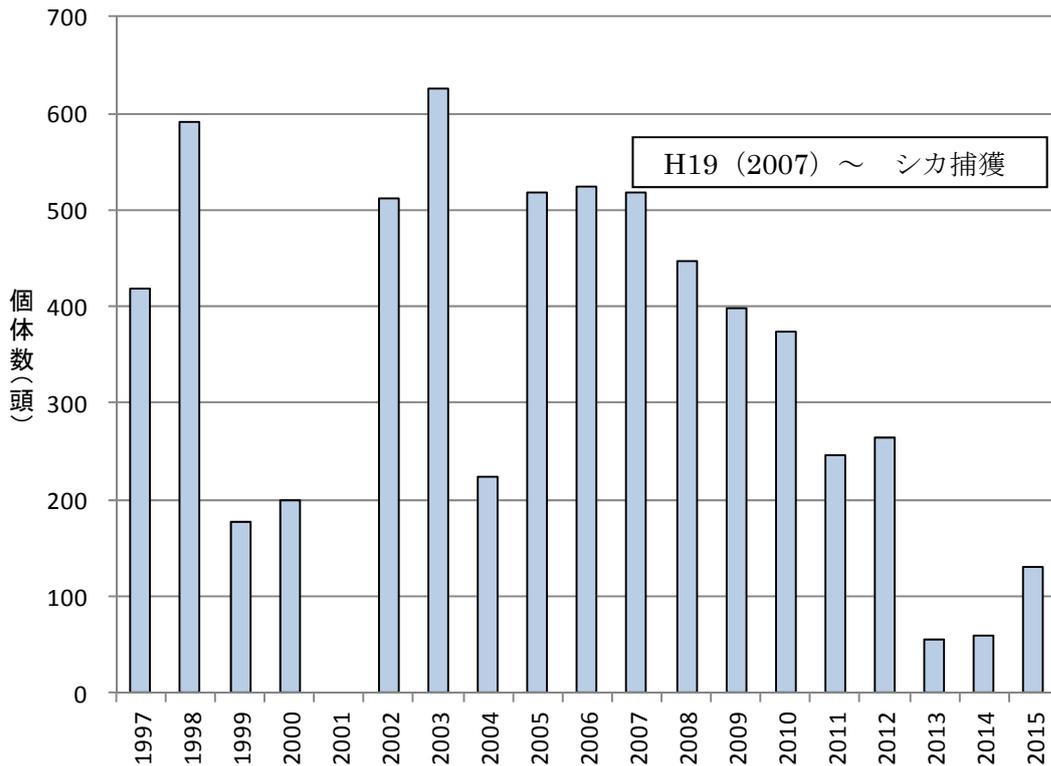


図 1-2-3. 航空カウント調査による知床岬先端部のエゾシカ越冬確認数（各年とも捕獲実施前）の推移 ※平成 13（2001）年は調査なし

### <まとめ>

- ※羅臼側（赤岩側）のシカは仕切柵外（一の沢以南）から仕切柵内へ、夕方進入・早朝退出のパターンを繰り返している可能性が高い（自動カメラデータ等）。
- ・厳冬期は斜里側（文吉湾側）のシカも同様の日周行動をしている可能性あり。
- ・多数捕獲のためには、早朝または夕方の遅い時間に仕切柵末端のシカの通路を塞いだ後、仕切柵内で巻狩りを実施する、または柵内を攪乱してシカの通路で待ち伏せ捕獲を実施する方法が有効。特に後者は無積雪期にも有効。
- ・現状では、日中の仕切柵内にはシカがほとんどいないため、日帰り捕獲は不適。流氷期・無積雪期ともに現地泊が必要。
- ・仕切柵の機能がこれ以上損なわれると、効率的な捕獲は困難となる。